

琉球大学学術リポジトリ

平成21年度 (2009) 発達支援教育実践センター事業報告

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2010-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/17349 |

平成21年度（2009）発達支援教育実践センター事業報告

本センターは発達支援を必要とする子どもたちへの教育に関する基礎的研究、臨床的研究、そして教育方法の開発等を行うとともに教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的としている。平成19年4月より特別支援教育がスタートし、試行錯誤の取り組みが学校現場において行われている。発達支援教育・特別支援教育に対する現場からの本センターへの期待はますます大きくなることを見据えて、平成18年10月より現場での取り組みをサポートするとともに子どもたちへの支援を行いながら学生の実践教育を行うトータル的な実践活動『実践トータル支援活動』をスタートさせた。本年度10月で4年目に入り、他機関との連携も深めながら、地域貢献および学生教育の発展に努めている。

昨今、早期支援の重要性が指摘され、乳幼児期から学童期へと一貫した子どもたちの支援の必要性が求められている。当センターにおいても乳幼児期における発達支援および特別支援教育に関するより一層の地域貢献を求められるようになった。そこで当センターの名称を本年度から新たに『発達支援教育実践センター』と変更し、乳幼児における発達上のハイリスク児を含めた対象を拡げ、一貫した支援教育を視野に入れて再スタートすることになった。

また、本年度から新しいセンターの施設の整備が完了し、相談室やブレイルームが整った。さらに『特別研究員制度』が設けられ、『特別研究員』が当センターの事業や子どもたちの支援や教育に大きな力となった。来年度は新しい施設と特別研究員の協力のもとでより一層の地域貢献をしていく方針である。

本センターは本年度においても発達支援を必要とする気がかりな子どもたちへの教育や関わりのあり方を考える上での方法や資料の提供、実践事例研究会、発達理論の勉強会、公開セミナー、研修会などを開催した。また、教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などの教育機関、付属小・中学校との連携による支援を行った。

関係機関および付属小・中学校への共同研究 および連携支援

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携の在り方を模索した。

- ①機関名：八重山教育事務所 活動名：島嶼地域出張教育相談支援
活動内容：発達相談、教育心理相談、学校訪問相談
- ②機関名：八重山教育事務所 活動名：トータル支援教室の出前支援、実践事例研究会
活動内容：トータル支援出前教室、事例研究会による特別支援教育支援員実践力養成支援
- ③機関名：読谷村教育委員会 活動名：特別支援教育支援員養成支援
活動内容：トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援
- ④学校名：東村立東小学校 活動名：トータル支援教室の通常学級への出前支援
- ⑤学校名：付属小学校 活動名：定例の巡回相談（月1回）
- ⑥組織名：国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会
課題名：小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発

1. 実践教育・臨床支援活動

中核の活動である『トータル支援教室』では、大学教員、学生、院生、現職教員等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期的に集団支援、個別支援、連携支援を行った。特に本年度は教育委員会との連携による特別支援教育支援員の養成の取り組みおよび近接専門領域の学生参加による活動を行った。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員にとっては発達支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。発達支援教育実践センター

は発達支援における地域貢献及び特別支援教育に貢献する教員を育てることを重要な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

(1) 個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。8月22日の発達支援セミナーにおいて試行したアンケート結果において当センターに対する期待の大きさが伺われた。保育や学校現場では支援体制が整ってきたが、その支援が機能するかどうかは今後の発達支援・特別支援教育の課題である。相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望と同時に、学校内部の取り組みを機能させるための支援についての期待があがった。学校現場は専門性の高い信頼できる相談機関を求めており特別支援教育のスタートによる子どもたちの発達支援や学校現場の戸惑いへの支援が課題となっている。本センターは新しい施設が本年度、完成した。来年度からより一層の地域貢献を目指している。

(2) 集団実践教育・臨床活動

来所された子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもたちには『トータル支援教室』に参加してもらった。昨年度までは一昨年度研究指定校であった浦添市立沢岬小学校に在籍する子どもを中心に、本年は少しずつ『トータル支援教室』を卒業する子どもたちもあり、3年前から参加しているメンバーの入れ替わりの時期に来ている。来年度に向けて新しいメンバーに加わってもらう計画である。この活動は子どもたちを支援するとともに大学と小・中学校が連携することにより発達支援・特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。本年度は、小学校や中学校や特別支援学校の先生やスクールカウンセラーとの連携により個別支援担当スタッフとの情報交換も活発に行われた。子どもたちに対して細やかな支援が必要になるにつれて地域の支援機関とのネットワークの輪を広げていくことが課題となっていた。そこで、引き続き、浦添市立沢岬小学校の子どもたちに参加してもらうとともに、昨年度から参加している医療法人おもと会の言語聴覚士養成専門学校の学生、さらに本年度から新しく当センターが提供している『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』の演習を受講している教育

学部、法文学部の学生等、専門専修に限らず多面的な視点をもったメンバーが取り組みに参加することになった。また、本年度は、出前支援として東村立東小学校の通常学級で『トータル支援教室』で行った取り組みを行うことにより、現場の通常学級の中に複数在籍する支援が必要な子どもたちへの『トータル支援教室』の実践の成果を還元していくことにも取り組んだ。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとっては発達支援・特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。従って、センターの活動へ参加することによりひとりの子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の発達支援・特別支援教育へ還元することを目的としている。本年度は、昨年度同様に読谷村教育委員会の支援員が実践力を養成する目的で活動に参加し、センター主催の発達支援セミナーにおいて、当センターとの連携支援の成果を報告した。

(3) 実践教育・臨床支援ケースの概要

平成21年1月から平成21年12月までの1年間の月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計397セッションになった。昨年度は466セッションであったので、69セッション減少した。実践トータル支援プログラムの個別支援セッションが昨年度151セッションから77セッションへと半減したことがセッション数の減少の要因である。実践トータル支援プログラムの継続的な個別支援は、子どもたちの発達に伴い、その個別支援の必要性が低下したことが原因として挙げられる。また実践トータル支援プログラム外の個別支援のセッション数は10セッションであり、本年度はほとんどセッションがもてなかった。新しい施設の整備が遅れたり、遊具の購入などによりしっかりとした時間が取れなかった。

一方、親面接は昨年度に比べ27セッション増加した。積極的に保護者への面接依頼を受けて地域の保育園や学校に重点を置いた支援を行ったことが要因である。特に離島・へき地にプロジェクトで出向いたことで不安を抱える多くの保護者と面接をすることができたことが増加の要因である。

本年度でセンターの相談室、プレイルームが整い、遊具がそろうことにより、来年度は個別セッションにも力を入れて地域に貢献していく方針である。

表1 臨床活動 セッション数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 親面接（カウンセリング含む）セッション数 | 0 | 13 | 2 | 7 | 6 | 10 | 8 | 14 | 13 | 8 | 16 | 12 | 109 |
| 教員面接（スーパーヴィジョン含む）セッション数 | 0 | 15 | 0 | 16 | 16 | 18 | 19 | 10 | 17 | 17 | 21 | 19 | 168 |
| 子どもへの発達・教育学習・適応支援（心理療法含む）セッション数 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 10 |
| 実践トータル支援プログラム（個別支援）セッション数 | 8 | 0 | 0 | 7 | 14 | 14 | 7 | 0 | 0 | 12 | 10 | 5 | 77 |
| 実践トータル支援プログラム（集団適応支援）セッション数 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 3 | 2 | 2 | 19 |
| 事例研究会（グループスーパーヴィジョン）セッション数 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 14 |
| セッション総数 | 11 | 30 | 7 | 32 | 39 | 47 | 37 | 25 | 31 | 42 | 55 | 41 | 397 |

（4）実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表2には診断別内訳を示した。相談対象のなかで多い障害が広汎性発達障害（自閉症）とアスペルガー障害（高機能自閉症）であり、両障害併せて約49.5%を占め、自閉症圏の障害者が半数を占めた。次に精神遅滞（知的障害）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、情緒障害が多かった。

表2 臨床活動 診断別内訳

| 診断名 | 事例数 |
|-------------------|-----|
| アスペルガー障害（高機能自閉症） | 23 |
| 注意欠陥多動性障害（ADHD） | 8 |
| 精神遅滞（知的障害） | 13 |
| 広汎性発達障害（自閉症） | 27 |
| 学習障害（LD） | 1 |
| 情緒障害（虐待、緘黙、不登校含む） | 8 |
| 聴覚障害 | 1 |
| 言語障害 | 1 |
| ダウン症候群 | 5 |
| 境界知能 | 1 |
| 身体障害 | 3 |
| その他 | 10 |
| 計 | 101 |

（5）実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、那覇市、浦添市などの大学周辺の市町村からの相談（約48.5%）を多く受けた。また、継続支援を行ってきた八重山地区では専門的立場で支援を行う人材の育成が課題となっている。発達障害のある子どもの保護者の不安は高くなり、大学の支援の必要性が大きくなっている。昨年度は

県外講師、山上雅子氏（元京都女子大学教授）を招聘し石垣巡回相談を行った。

本年度は教育学部における21世紀おきなわ子ども教育フォーラムの一環として八重山教育事務所と連携し、石垣市および武富町に出むき相談（33.7%）を多く受けた。本年度から東村の出前相談も実施できたことにより、離島・へき地の重点的な支援を行うことができた。那覇市教育委員会からの支援依頼も増加した。

表3 相談ケースの地域別内訳

| 相談ケースの地域別内訳 | 事例数 |
|-------------|-----|
| 宜野湾市 | 25 |
| 那覇市 | 17 |
| 浦添市 | 7 |
| 沖縄市 | 3 |
| 中城村 | 2 |
| 豊見城市 | 1 |
| 南城市 | 1 |
| 与那原町 | 1 |
| 南風原町 | 1 |
| 座間味村 | 1 |
| 東村 | 8 |
| 石垣市 | 29 |
| 武富町 | 5 |
| 総計 | 101 |

2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、

現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援教室をスタートさせた。専門機関としての大学の発達支援教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援することがこの活動のねらいである。

(1) 実践トータル支援教室

保護者や学校から発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援活動をスタートさせた。以下のような目的で活動している。

- ① 支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
- ② 支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員への実践教育支援
- ③ 学校との連携支援
- ④ 支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法など、実践に役立つ支援に関する研究

支援活動は、学部学生、大学院生、保育士、小学校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者の支援として子育て支

援講座を行っている。以下のような支援課題と目的で活動をしている。

1) 個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

2) 集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさとメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切にする」子育て支援を目的にしている。

水曜日、月2回のペースで3月までは琉球大学50周年記念館を、4月以降からは共通教育棟1号館4階の新しい発達支援教育実践センターを会場とし、多くの参加者により支援活動を行った。以下に2009年1月から12月までの第43回から第58回までの活動内容を表4に示す。また、支援活動参加者数を表5に示す。

表4 集団支援活動の内容

| 回 | 活 動 日 | 活 動 内 容 |
|----|-------------|---|
| 43 | 2009年 1月14日 | ・カルタ王にオレはなる！！ |
| 44 | 2009年 1月28日 | ・どすこい！！紙ずもう！！ |
| 45 | 2009年 3月11日 | ・大好きな人へのプレゼント？ |
| 46 | 2009年 4月22日 | ・みんなでドミノ！ |
| 47 | 2009年 5月13日 | ・レッツゴー!!家や恐竜の絵本へ |
| 48 | 2009年 5月27日 | ・ツユコレ～世界に一つだけの傘&カップ～ |
| 49 | 2009年 6月10日 | ・逃げるカルタを捕まえろ!! |
| 50 | 2009年 6月24日 | ・すご～く大きい!!巨大すごろく★ |
| 51 | 2009年 7月 8日 | ・いろいろゲーム大会 |
| 52 | 2009年 7月22日 | ・とばせ！紙ひこうき～☆ |
| 53 | 2009年 9月 9日 | ・シャボン玉で遊ぼう |
| 54 | 2009年10月14日 | ・だるまさんがころんだ&鬼ごっこ (Aグループ) ・ドミノ (Bグループ) |
| 55 | 2009年10月28日 | ・だいこんぬき&はないちもんめ (Aグループ) ・さわりごちがかわったよ (Bグループ) |
| 56 | 2009年11月11日 | ・輪くぐり&ボール投げ (Aグループ) ・レゴの世界へレッツゴー！！ (Bグループ) |
| 57 | 2009年11月25日 | ・オリジナルすごろくを作って遊ぼう☆ |
| 58 | 2009年12月 9日 | ・風船をつかって遊ぼう！ |

表5 支援活動参加者数

| 参加者数 活動日 | 子ども | 親 | 学部学生 ・特別専 攻科 | 他学部 学生 | 院生 | 特別支 援教育 支援員 | 近接領 域他大 学学生 | 現職教 員 | 近接領 域の専 門家 | センタ ースタッ フ | 合計 |
|----------------|-----|---|--------------------|-----------|----|-------------------|-------------------|----------|------------------|------------------|----|
| 第43回 1月14日 | 9 | 8 | 16 | 6 | 6 | 0 | 3 | 7 | 0 | 1 | 56 |
| 第44回 1月28日 | 8 | 7 | 14 | 6 | 6 | 0 | 4 | 8 | 1 | 1 | 55 |
| 第45回 3月11日 | 8 | 7 | 15 | 5 | 5 | 0 | 4 | 6 | 0 | 1 | 51 |
| 第46回 4月22日 | 9 | 8 | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 7 | 1 | 3 | 52 |
| 第47回 5月13日 | 8 | 7 | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 48 |
| 第48回 5月27日 | 6 | 5 | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 5 | 1 | 2 | 43 |
| 第49回 6月10日 | 8 | 7 | 4 | 5 | 6 | 4 | 5 | 6 | 0 | 2 | 47 |
| 第50回 6月24日 | 6 | 6 | 3 | 5 | 6 | 4 | 4 | 5 | 0 | 2 | 41 |
| 第51回 7月8日 | 7 | 6 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | 0 | 2 | 41 |
| 第52回 7月22日 | 8 | 7 | 4 | 3 | 6 | 4 | 4 | 6 | 0 | 2 | 44 |
| 第53回 9月9日 | 5 | 5 | 0 | 2 | 3 | 1 | 2 | 5 | 0 | 2 | 25 |
| 第54回 10月14日 | 4 | 4 | 0 | 2 | 2 | 1 | 3 | 4 | 0 | 2 | 22 |
| 第55回 10月28日 | 9 | 8 | 12 | 4 | 4 | 1 | 6 | 6 | 0 | 2 | 52 |
| 第56回 11月11日 | 10 | 9 | 12 | 4 | 4 | 0 | 3 | 3 | 0 | 2 | 47 |
| 第57回 11月25日 | 5 | 5 | 12 | 4 | 4 | 1 | 3 | 3 | 0 | 1 | 38 |
| 第58回 12月9日 | 6 | 5 | 11 | 3 | 3 | 0 | 3 | 4 | 0 | 1 | 36 |

（2）公開セミナーと実践トータル支援プログラムの研究成果報告

地域社会への貢献を目的に公開セミナーおよびセンター活動の実践研究成果の報告を行った。『沖縄の子どもたちの生きるかたちと発達支援教育実践』というテーマのもと、会場浦添市てだこホール（中ホール）において、8月22日（土）に行われた。セミナーは京都発達研究会が共催となった。山上雅子（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）氏、京都発達研究会のメンバーをお招きすることができた。当センター専任浦崎武、特別研究員、読谷村教育委員会により実践研究報告を行い、京都発達研究会のメンバーからコメントを頂いた。最後に山上雅子氏からまとめとして講話を頂くことができ、教員、保育士、学生、支援員、保護者にとって実りのある

セミナーとなった。特別支援の実践研究報告は個別支援、集団支援、連携支援の各支援部門の担当者からの報告を行った。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。本センターにおいてもアンケートによる地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた。教員、保育士、保護者のみならず、市町村教育委員会から多くの特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、教育の領域を超えて医療や発達障害者支援センター等の福祉の専門家の参加が見られたことは今後のセンターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。この公開セミナーは新聞報道（沖縄タイムス社・琉球

新報社に掲載)にも取り上げられ、多くの反響を得た。

公開特別支援セミナー

『沖縄の子どもたちの生きるかたちと発達支援教育実践 ～多様な事例から学ぶこと～』

共催 京都発達研究会

後援 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会

日時：8月22日 土曜日 10時30分～16時30分

会場：浦添市でだこホール（中ホール）

参加者：約130人

・実践トータル支援活動の研究報告

司会：浦崎武：発達支援教育実践センター専任

コメント：山上雅子、京都発達研究会

A. トータル支援実践研究報告：発達を支える他者との関係性と他者とともに過ごす場

個別支援 実践報告

研究報告者：瀬底正栄：東村立東小学校

発達支援教育実践センター特別研究員

タイトル：「中学生男児との個に応じた関わりー

個別支援グループの2年間」

集団支援 実践報告

研究報告者：崎濱朋子：沖縄市立中の町小学校

発達支援教育実践センター特別研究員

武田喜乃恵：発達支援教育実践センター特別研究員

タイトル：「集団のなかで他者と関わることー集団支援グループの3年間」

B. トータル支援研究報告（本年度の実践トータル支援活動を振り返って）

まとめ 研究報告者：浦崎武

タイトル：「沖縄本島および離島の子どもたちの生きるかたちとトータル支援活動」

C. 沖縄の子どもたちの生きるかたちと発達支援教育実践～沖縄の現状・支援教育の取組み・地域における発達支援教育実践～

報告者：宜保健：読谷村教育委員会

タイトル：「読谷教育委員会における沖縄の特色を生かした発達支援教育システム」

報告者：発達支援教育実践センター特別研究員（崎濱、瀬底、武田）

タイトル：「八重山の支援活動を通じた子どもたちの生きるかたち」

公開討論：山上雅子（元京都女子大学教授、心理相談室ハタオリドリ主宰）

：京都発達研究会メンバー及び発表者全員

D. まとめ：沖縄の子どもたちの生きるかたちと発達支援教育実践

講師：山上雅子

(3) 離島・へき地支援活動

地元の新報（八重山毎日新聞2008年1月19日に掲載）において、発達支援教育実践センターの八重山の周辺離島への継続的な支援の必要性が取り上げられたこともあり、相談支援、学校訪問に加え、大学において定例で行っている事例研究会を出張して行う新たな取り組みを昨年度に続き行った。一昨年の第1回は外部相談員として山上雅子氏（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）の協力を得て、専任教員浦崎武、事例提供者として大学院生の武田喜乃恵の3人で参加した。そして第2回は2009年3月5日、6日にセンター長奥田実、専任浦崎武、特別研究員の瀬底正栄、崎濱朋子、武田喜乃恵および現職教員の金城明美、6人で教育学部共同研究経費によりスタッフの人数を増やして出前トータル支援教室を開催した。第4回八重山出前支援は学部プロジェクトとして21世紀沖縄子ども教育フォーラムに参画し実施した。第1回、東村出前支援に関しては財団法人宇流麻財団の助成を得て行った。

離島・へき地における八重山出前支援および東村出前支援における臨床活動のセッション数を表1に、診断別内訳を表2に、地域別内訳を表3に示す。

1) 八重山出前支援

①石垣市（第2回）

A. 教育研修会

実践事例研究会 3月5日（2009）

会場：八重山教育事務所

B. トータル支援教室

出前支援 3月6日（2009）

会場：八重山教育事務所

②石垣市・武富町（西表島）（第3回）

A. 相談会

8月26日 会場：八重山教育事務所

相談者：5人

8月27日 会場：八重山教育事務所

相談者：7人

8月28日 会場：武富町立大原中学校

相談者：5人

③石垣市（第4回）

A. 相談会

12月11日 会場：八重山教育事務所

相談者：6人

B. トータル支援教室 出前支援

12月12日 参加者：47人（7人スタッフ含）
子ども15人、親14人、教員11人、支援スタッフ7人（学生2人含）

C. 講演会

12月12日 参加者：17人
講師：浦崎武
演題：「支援が必要な子どもたちのそだちと発達支援教育」

D. 実践事例研究会

12月12日 参加者：13人

2) 東村出前支援

①東村立東小学校（第1回）

A. 相談

10月30日 会場：東村立東小学校
相談者：3人

B. トータル支援教室 出前支援

10月30日 参加者：49人（9人スタッフ含）
子ども18人（支援児6人含）、親3人、教員19人、支援スタッフ9人（学生3人含）

C. 実践事例研究会

10月31日 参加者：20人

表1 臨床活動 セッション数

| | 3月 八重山 | 8月 八重山 | 10月 東村 | 12月 八重山 | 合計 |
|------------------------------|-----------|-----------|-----------|------------|----|
| 保護者相談会（カウンセリング含む）、面接セッション数 | 0 | 11 | 2 | 5 | 18 |
| 教員相談会（スーパーヴィジョン含む）、面接セッション数 | 0 | 8 | 1 | 1 | 10 |
| トータル支援教室（集団適応支援）セッション数 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 実践事例研究会（グループスーパーヴィジョン）セッション数 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| セッション総数 | 2 | 19 | 5 | 8 | 34 |

表2 臨床活動 診断別内

| 診断名 | 八重山 事例数 | 東村 事例数 | 合計 |
|-------------------|------------|-----------|----|
| アスペルガー障害（高機能自閉症） | 9 | 2 | 11 |
| 注意欠陥多動性障害（ADHD） | 5 | 0 | 5 |
| 精神遅滞（知的障害） | 3 | 0 | 3 |
| 広汎性発達障害（自閉症） | 8 | 0 | 8 |
| 学習障害（LD） | 0 | 1 | 1 |
| 情緒障害（虐待、緘黙、不登校含む） | 6 | 1 | 7 |
| 聴覚障害 | 0 | 0 | 0 |
| 言語障害 | 0 | 1 | 1 |
| ダウン症候群 | 0 | 1 | 1 |
| 境界知能 | 1 | 0 | 1 |
| 身体障害 | 1 | 0 | 1 |
| その他 | 3 | 0 | 3 |
| 計 | 36 | 6 | 42 |

表3 相談ケースの地域別内訳

| 相談ケースの地域別内訳 | 事例数 |
|-------------|-----|
| 石垣市 | 29 |
| 竹富町（西表島） | 5 |
| 東村 | 8 |
| 総計 | 42 |

(4) 学校、保育園訪問支援活動

本年は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園の訪問支援を行った。保育園を含め10学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち6園は月1回定期巡回の訪問支援となった。

(5) 他機関および付属小・中学校との連携支援

①島嶼地域出張教育相談支援 八重山教育事務所との連携支援

教育相談会、実践事例研究会、トータル支援教室の出前

②特別支援教育支援員養成支援 読谷村教育委員会との連携支援

トータル支援教室における特別支援教育支援

員の実践力養成支援

- ③トータル支援 東村立東小学校との連携支援
通常学級の支援を必要とする子どもたちへのトータル支援教室における支援
- ④トータル支援学級応用支援 沖縄市中の町小学校情緒障害児特別支援学級との連携支援
トータル支援教室における取り組み（企画）を特別支援学級への授業応用実践研究
- ⑤連携支援 附属小学校との連携支援 校内委員会の実施、子どもの適応支援
 - ・特別支援教育校内委員会の実施
日 時：4月10日、16時00分
参加者：全教員
 - ・発達が気になる子どもの適応支援、トータル支援教室への参加

3. 学生、院生、特別研究員への教育活動

(1) 実践トータル支援活動

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、将来、発達支援、特別支援教育に貢献できる学生や院生を育成すること、子どもたちの支援教育に携わる研究員の実践力を高めることを目的として教育活動を行っている。実践トータル支援活動のなかで「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」、「軽度発達障害児の臨床心理」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる人材を育てる教育を行っている。

(2) 実践事例研究会

実践事例研究会において、院生、特別研究員が実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。

1) 実践事例検討会による院生への実践教育

第27回は発達支援教育実践センターの専任教員

が実践事例を報告した。第31回、第32回は特別研究員、第36回は院生が実践事例を報告し、参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

・第27回 実践事例研究会

発表者：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 専任教員

タイトル：『沖縄の特別支援教育の現状と課題』
日 時：2月4日 18時30分

・第31回 実践事例研究会

発表者：東村立東小学校 教員（発達支援教育実践センター 特別研究員）

タイトル：『発達障害をもつ小学生男子の個別支援の事例』

日 時：6月17日

・第32回 実践事例研究会

発表者：発達支援教育実践センター 特別研究員

タイトル：『特別な支援を必要とする子どもたちへの集団支援活動での取り組みについて』

日 時：7月15日

・第36回 実践事例研究会

発表者：琉球大大学院 院生（南城市立大里南小学校 教員）

タイトル：『高機能自閉症児と他者との関係性を育てる試み～特別支援学級と通常学級相互の学校生活を通して～』

日 時：12月16日

2) 公開特別支援セミナー

特別支援の実践研究報告は集団支援、個別支援、連携支援の各支援部門の担当者からの報告を行った。多面的な視点によるスーパーヴァイズを受けた。

A. 実践研究：発達を支える他者との関係性と他者とともに過ごす場

a. 「臨床活動・個別支援」研究報告

発表者：瀬底正栄（東村立東小学校教諭、発達支援教育実践センター特別研究員）

タイトル：『中学生男児との個に応じた関わり～個別支援グループの2年間』

b. 「トータル支援・集団支援」研究報告

発表者：崎濱朋子（沖縄市立中の町小学校教諭、発達支援教育実践センター特別研究員）

武田喜乃恵（発達支援教育実践センター特別研究員）

タイトル：『集団のなかで他者と関わることー
集団支援グループの3年間』

B. 沖縄の子どもたちの生きるかたちと発達支援教育実践～沖縄の現状・支援教育の取組み・地域における発達支援教育実践～

C. 「八重山の支援活動を通じた子どもたちの生きるかたち」

発表者：発達支援教育実践センター特別研究員

（3）センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、当センターでの取り組みに参加し実践を学ぶことをねらいとして、本年度から学部への提供授業『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』を開設した。また、特別支援教育専攻の選択必修授業を担当している。平成21年度は以下の授業を担当した。

学部1年～4年 「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」

学部3年 特別専攻科「軽度発達障害児の臨床心理」

大学院「特別支援教育特論B」

大学院「障害児臨床心理学特論」

大学院「軽度発達障害者支援特論」

大学院「障害児教育の実践研究V」

（4）センター専任教員の卒業論文、修士論文の指導

1) 修士論文について

修士論文に関しては、1名の大学院2年生（特別支援教育専修）の指導を行った。論文の題目は以下のようになっている。

・学童期における高機能自閉症児と他者との関係性を育てる試みー特別支援学級と通常学級相互の学校生活を通してー

2) 紀要について

1名の大学院2年生が、以下の紀要をまとめた。

・2010年3月（新垣香代子、浦崎武）学童期における高機能自閉症児と他者との関係性を育てる試みー特別支援学級と通常学級相互の学校生活を通してー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 創刊号

4. 研究教育活動

（1）実践事例研究会

2006年10月から月1回定期、水曜日に院生、現

職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者、その他の近接領域の関係者が参加して実践研究を行ってきた。本年度は当発達支援教育実践センターの活動施設が完成したことにより、新設されたセンターにおいて支援活動を行った。この実践事例研究会は対外的には沖縄発達研究会と呼び、長年の子どもの発達研究の成果が蓄積された京都発達研究会のスーパーヴァイズ等の協力を得ている。

第4回は特例会として麻生武（奈良女子大学）氏、山上雅子（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）氏がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男（奈良女子大学）氏、麻生武氏、山上雅子氏の他、京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。第22回は京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第24回の特例会研究会では発達支援教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出向き、第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。

本年度は第28回（第6回特例会）事例研究会では浜田寿美男氏が、第33回（第7回特例会）では第3回京都の発達研究会との共同研究会が沖縄で開催され、京都から7人の参加があった。

・第3回沖縄・京都発達研究会合同研究会：第33回（第7回特例）実践事例研究会

沖縄発達研究会メンバーによるトータル支援活動報告会

日時：8月21日

場所：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター

発表者：沖縄県立島尻特別支援学校 教員 那覇市立松島中学校 教員 浦添市立石田中学校 教員

タイトル：『軽度の知的障害をもつ児童の支援～個別支援での3年間～』

年間の実践事例研究会の発表者、タイトル、日時、参加者は以下のとおりである。

・第26回 実践事例研究会

発表者：沖縄県立美咲養護学校 教員

タイトル：『コミュニケーション能力を高める指導の工夫～視覚的な支援方法を取り入れて～』

日時：1月20日 18時30分

- 参加者：17名
- ・第27回 実践事例研究会
発表者：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 専任教員
タイトル：『沖縄の特別支援教育の現状と課題』
日時：2月4日 18時30分
参加者：32名
 - ・第28回 (第6回特例会) 実践事例研究会
発表者：沖縄市立中の町小学校 教員
タイトル：『お絵描きに没頭する自閉症男児への関わりについて』
コメント：浜田寿美男 (奈良女子大学)
日時：2月21日 18時30分
参加者：15名
 - ・第29回 実践事例研究会
発表者：那覇市立石嶺小学校 教員
タイトル：『通常学級における支援事例』
日時：4月15日 18時30分
参加者：24名
 - ・第30回 実践事例研究会
発表者：読谷村教育委員会 職員
タイトル：『発達支援体制について』
日時：5月20日 18時30分
参加者：39名
 - ・第31回 実践事例研究会
発表者：東村立東小学校 教員 (発達支援教育実践センター 特別研究員)
タイトル：『発達障害をもつ小学生男子の個別支援の事例』
日時：6月17日
発表者：21名
 - ・第32回 実践事例研究会
発表者：発達支援教育実践センター 特別研究員
タイトル：『特別な支援を必要とする子どもたちへの集団支援活動での取り組みについて』
日時：7月15日
発表者：12名
 - ・第33回 (第7回特例会) 実践事例研究会
発表者：沖縄県立島尻特別支援学校 教員 那覇市立松川中学校 教員 浦添市立石田中学校 教員
タイトル：『軽度の知的障害をもつ児童の支援～個別支援での3年間～』
日時：8月21日
 - 発表者：27名 (特別支援学校教員、小学校教員、大学教員、院生など)
 - ・第34回 実践事例研究会
発表者：ゆうわ保育園 保育士
タイトル：『保育園での気になる子やその保護者への支援』
日時：10月21日
発表者：22名 (特別支援学校教員、小学校教員、大学教員、院生など)
 - ・第35回 実践事例研究会
発表者：那覇市立松島小学校 教員
タイトル：『支援学級1年生男児との関わりを通して』
日時：11月18日
発表者：14名 (特別支援学校教員、小学校教員、大学教員、院生など)
 - ・第36回 実践事例研究会
発表者：琉球大大学院 院生 (南城市立大里南小学校 教員)
タイトル：『高機能自閉症児と他者との関係性を育てる試み～特別支援学級と通常学級相互の学校生活を通して～』
日時：12月16日
発表者：15名 (特別支援学校教員、小学校教員、大学教員、院生など)
- (2) 実践研究公開報告
- 8月22日のセミナーにおいて実践トータル支援活動の成果について実践事例研究の報告を行い、山上雅子 (元京都女子大学教授、心理相談室ハタオリドリ) 氏、共催の京都発達研究会のメンバーおよび参加者から貴重なコメントを頂いた。
- (3) 国立大学障害児教育関連施設・センター共同研究
- 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会の会員が連携研究者となって共同研究を行っている。平成20～21年度科学研究費補助金 (基盤研究B、課題番号 20330194)、研究課題は『小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発』である。
- (4) 実践研究論文の作成
- 8月4日に実践研究公開の発表を行った事例を中心に実践トータル支援活動の実践の成果、実践事例研究会の検討事例に関する実践研究の成果を以下の

論文にまとめた。

- ・2010年3月（浦崎武）アスペルガー症候群の子どもの学童期におけるフラッシュバックと自己存在に関する不安～発達にともなう行動の変容と関係性に焦点を当てた支援のあり方～ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第1号
- ・2010年3月（浦崎武、武田喜乃恵、崎濱朋子、瀬底正栄、宮脇絵里子）発達支援教育に於ける実践力養成システムの構築と離島・へき地への展開～八重山への出前トータル支援教室について～琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第1号
- ・2010年3月（瀬底正栄）思春期の発達障害児に対する関係形成による発達支援—事例の変容過程に焦点を当てて— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第1号
- ・2010年3月（金城明美、浦崎武）発達障害の子どもへの集団トータル支援のかかわり—「非指示的アプローチ」と「指示的アプローチ」—琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第1号
- ・2010年3月（新垣香代子、浦崎武）学童期における高機能自閉症児と他者との関係性を育てる試み—特別支援学級と通常学級相互の学校生活を通して— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第1号

（5）発達研究会

毎月1回、大学院生、現職教員、発達支援に携わる専門家を対象に発達研究会を開いている。実践教育を行う上で基礎となる発達理論を学ぶ会を開いている。

（6）定期刊行物の発行

定期刊行物として「発達支援教育実践センター紀要」を発行している。2010年3月には第1号（創刊号）を発行した。実践支援セミナーにおける山上雅子氏（元京都女子大学教授）の研究発表後のコメントを掲載した。

（7）研究資料の提供

- ・トータル支援教室の活動に関することや支援を受けている子どもたちとの関わりについて報告し、実践支援セミナーにおいて資料として配布した。
- ・実践支援セミナーにおいてトータル支援教室で行っている企画を学校で活用できるように指導案にし

て配布した。

（8）助成金における研究

1) 財団法人宇流麻財団

- ・東村立東小学校への出張支援：大学で行っている『トータル支援教室』を財団法人宇流麻財団の助成を受けて出前で行った。

事業名：地域発達支援活動および実践支援セミナー—実践トータル支援活動を通して—
実施期間：10月30日

2) 沖縄子どもフォーラム

- ・八重山主張支援を『沖縄子どもフォーラム』への参画により行った。

事業名：八重山教育事務所との連携による特別支援教育支援員の実践養成講座の構築
実施期間：第1回12月8日～9日、第2回3月5日～6日（2010）

5. その他の活動

（1）国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会について

毎年度、9月に1度、日本特殊教育学会の開会中に開催される障害児教育関連施設センター連絡協議会が開かれ、各センターの現状報告を行った。

日時：9月20日 13時30分～15時00分
会場：宇都宮大学

（2）その他の社会的活動

センター専任 浦崎武

- ・宜野湾市障害児等審査委員会委員
開催日 1月8日、1月27日（2010）
- ・島尻地区特別支援連携協議会委員
開催日 1月19日、2月12日（2010）
- ・明治安田こころの健康財団主催沖縄講座 特別支援教育の今を考える シンポジスト
タイトル：『沖縄における特別支援教育の現状と課題』
日時：2月22日 13時00分～17時00分
会場：カルチャーリーゾート フェストーネ
- ・宜野湾市保育園巡回相談員
依頼期間 4月1日～3月31日（2010）
- ・那覇市教育委員会幼・小・中学校特別支援教諭等研修会
日時：4月20日
会場：那覇市役所真和志支所
- ・那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回

相談員

依頼時期 5月16日～3月31日(2010)

- ・県教育委員会 カウンセリング実践講座(特別支援教育論) 講師
開催日 7月10日、17日、23日、8月25日
- ・県立学校保健会研修 講師
タイトル：『発達障害の生徒に対する理解と支援について』
日 時：7月16日
会 場：沖縄県立総合教育センター
- ・鏡が丘養護学校評議員
開催日 7月15日、2月1日(2010)
- ・県教育委員会 免許認定講習 講師
開催日 7月29日、30日
- ・名古屋市教育委員会講演 講師
タイトル：『発達の視点による子どもたちの生きるかたちと特別支援教育』
日 時：8月4日 13時～15時
会 場：名古屋市教育センター
発表者：300人
- ・特別支援教育コーディネーター・スーパーバイザー養成研修会(教育相談の在り方について) 講師
開催日 8月11日
会 場：沖縄県立総合教育センター
- ・免許状更新研修 講師(センター長奥田実、浦崎武)
タイトル：『特別な支援を必要とする子どもたちの図画工作』
日 時：8月18日 9時～16時20分
会 場：琉球大学50周年記念館
- ・那覇市教育委員会就学指導委員会委員
開催日 9月29日～3月31日(2010)
- ・読谷村教育委員会 子育て支援セミナー
日 時：10月5日 10時～12時00分
会 場：読谷村教育委員会
- ・座間味村教育委員会就学指導委員会委員
開催日 12月24日
- ・特別支援教育体制推進事業 島尻地区特別支援教育専門家チーム員
依頼機関 2月16日(2010)